

地濃茂雄会長を再任

県コンクリート診断士会が総会

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄、新潟工科大学建築学科教授）は5日、新潟市中央区のほんぽーと新潟市立中央図書館で今年度総会を約60人で開催し、技術



今年度事業計画を決めた総会

セミナーや現場見学会を開催するなどとする事業計画を決めることにも、任期満了に伴う役員改選で地濃会長を再任した。事業計画では11～12月に診断などの事例報告を

内容とする技術セミナー、9～10月にネクスコ東日本管内橋梁補修工事の現場見学会を行うことを盛り込んだ。さらに診断士会の社会的地位の向上に資するための講師派遣、診断士情報のPR活動も決めた。

役員改選では副会長に吉田弘（ナカノアイシステム）、伊藤司郎（ダイヤテック前社長）の両氏、会計幹事には牧岳修氏（フォーラムスコープ）をそれぞれ再任した。再任された地濃会長は「コンクリート構造物共通の課題に向けて努力していき」と呼びかけた。また、一般社団法人日本コンクリート診断士会の理事で企画部会長の田

澤雄二郎氏が活動報告を行った。同氏はこの中で診断士の社会的ニーズが高まっていること、全国15地区の会と連携して社会的地位の向上に努めていくことを強調した。

総会終了後、アクロス・ザ・ドア建築研究所を主宰する鳴沢晴美氏が「イタリアにおける歴史的建築物と現在の共生」と題し講演した。同氏は古代ローマにおけるコロッセオなど大型建築や水道橋などの土木構造物で古代コンクリートの果たした大きな役割を強調。高い水準を持っていたことを明らかにした。また、歴史的構造物を保存するための法的規制と生活のあり方なども紹介した。